

## ユーロ圏金融政策（2023年5月）

利上げ幅は前回から縮小も、複数回の追加利上げを示唆

2023年5月8日

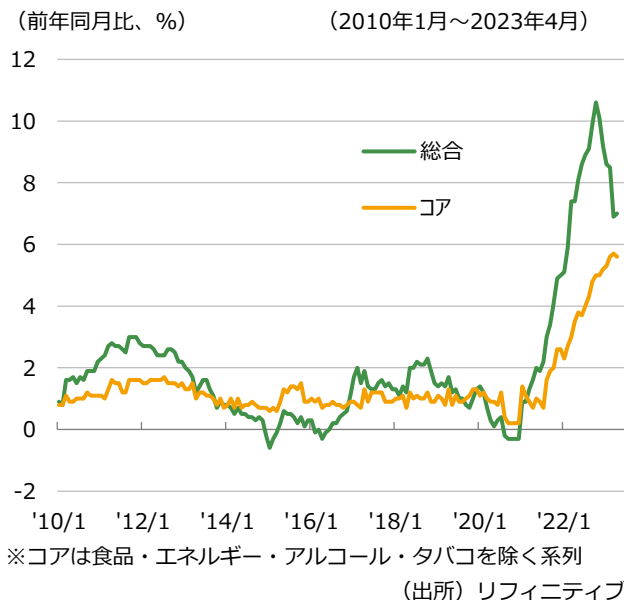
### これまでの利上げの金融環境や実体経済への影響を考慮

ECB（欧州中央銀行）は5月4日（現地）の理事会で0.25%ポイントの利上げを決定し、中銀預金金利（銀行がECBに資金を預け入れる際の金利）を3.25%としました。インフレがあまりにも長く、高過ぎるとの見通しに基づく決定でしたが、利上げ幅は前回の0.5%ポイントから縮小しました。その理由として、これまでの利上げが金融環境に大きな影響を及ぼしつつあることと、実体経済への影響の遅れと強さが不透明なままであることを挙げています。具体的には、1-3月期の銀行貸出調査で、銀行の貸出基準が一段と厳格化していたことや借入需要が大幅に減少していたことを指摘しています。

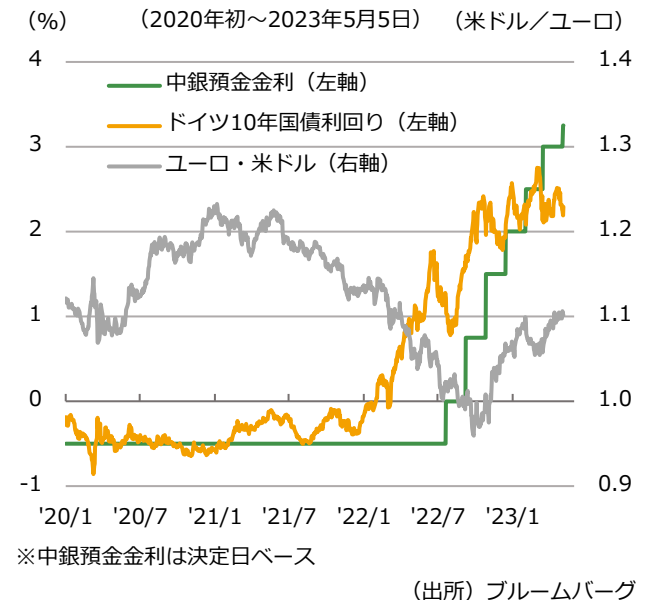
しかし、消費者物価指数は総合でこそ伸び率が鈍化基調にあるものの、コアは伸び率が未だ鈍化に転じたとは言い難く、どちらもインフレ目標の2%を大幅に上回ったままで、声明文でもインフレについて、両論併記ながら上振れリスクが強調されています。ラガルド総裁は記者会見で、政策金利を十分に引き締め的な水準まで引き上げ、その水準で必要なだけ長く留め置くことを確実にするために、利上げ途上であることを明言し、会合毎にデータに基づいて判断するとしつつも複数回の追加利上げを示唆しました。

それでも、利上げ到達点は遠くないと市場は判断した模様で、理事会直後に欧州の債券利回りは低下し、ユーロは下落しました。昨年7月来の累積で大幅な利上げに起因する金融不安への警戒も拭えず、ECBは6、7月に各0.25%ポイントの追加利上げを実施し、利上げ打ち止めとする可能性が高いと思われます。

#### ユーロ圏の消費者物価指数



#### ユーロ圏の金利と為替



#### 当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。